

2020/5/13

(個人的見解ですが、今コロナ禍で図らずも分かったこと)

今回のコロナ禍で、個人的にですが、図らずもわかったことは、
どんなに高位の為政者であろうともコロナに感染するという事実と
どんなに多額の金品を持っていたとしても、直接的にはそれが何の役にも立たないという
事実でした。

要するに人間社会特有のものがまるで役に立たなかった、或いは意味をなさなかったとい
うことです。

その反面、何が役に立ったかといえば、免疫力、抵抗力、そして生命力(サバイバル能力)
という、何のことはない「人間様」と雖(いえども)結局のところ数多ある生き物の中で、
所詮単なるその一種である「人目人科」でしかない「生物由来」のものばかりでした。

もしこの伝に従えば、そして巨視俯瞰的な公平平等の観点で見れば、その国の為政者や体制
の持つ力と国民のパワーの総和を比率換算 100(一定)と置き換えた場合に、国家的に医療
体制の脆弱な途上国、新興国の国民は、逆に個々人の免疫力、抵抗力、生命力(サバイバル
能力)が自然と上がり、反対に国家的な医療体制の強固な国の国民各人の同上の能力は、気
づかないまま、相対的に低下することになるというのも一片の真実があるような気が致し
ました(無論かなりの時間を経て分かる結果論であって、急場のしのぎには何の役にも立た
ない見方ではありますが)

では、以上のことから何が分かるのか?

それは、地球環境、生態系環境も含めて共生共存という意味で「人間様」はもう少し「人目
人科という生物的視点」を根底に置くべきではないか?

もっと率直に言えば、人間様を特別視し、生物界における選民であるという「傲慢」と「他
の環境や生物に対する見下し」、それにこれが最悪なのですが「それらを人間様が所有して
いる」という錯覚と誤認識を今少し、控えるべきではないか?

そして今一つは、国家は「ゴネれば、何でも出してくれる打ち出の小槌」などでは全くない
ことがわかったので、そんなありもしないものに過度に頼りすぎず、個々人の生命力(サバ
イバル能力)をアップすべく教育機会均等である中学三年までの義務教育の中に、アタマと
こころと身体を三方(さんぼう)万遍なく使い、生命力(個々人のサバイバル能力)アップ
させる枠組み(システムとカリキュラムと生徒、学生に対する評価方法)を取り入れるべき
ではないか?

ということでした。

生意気盛りのくそジジイの言葉故、お聞き流しくださってもいいとは思いますが、自分とし
ては、冒頭の「個人的見解」ではなく「世界的見解」になってほしいものだと思っております。